

令和5年度第1回鶴岡市中央公民館運営審議会記録（概要）

日時：令和5年8月22日（火）午後2時から3時50分

場所：鶴岡市中央公民館 第1会議室

出席者

委員：出席委員8名：

伊藤健治委員、梅津芳春委員、前森淳子委員、門松秀樹委員、榊原賢一委員、高山千代子委員、丸山壽身委員、難波正喜委員、

欠席委員4名：池田達枝委員、門脇里香委員、渡辺巖委員、阿部麻知子委員

事務局：説明員6名

鶴岡市中央公民館館長、主査（2名）、公民館専門員（2名）、専門員（1名）

傍聴者：なし

1. 開会：事務局

2. 委嘱状交付：任期は2年間、令和5年8月22日から令和7年8月21日まで。

12名の方を委嘱。伊藤健治委員に委員を代表して委嘱状を館長より交付した。

3. あいさつ：中央公民館長

4. 委員長並びに副委員長の選出

公民館設置及び管理条例施行規則第3条に基づき、委員の互選により、委員長に難波正喜委員を、副委員長に梅津芳春委員を選出した。

5. 報告：

議長は同規則第3条の5に基づき、委員長が行った。

（1）令和4年度施設運営及び事業実施実績について（要覧2ページから25ページ）

（2）令和5年度施設運営及び事業実施状況等について（資料1）

事務局より（1）及び（2）を一括して説明した。

質疑・意見等

委員：天文ボランティア育成とありますが、何人でどのような活動をされているのですか。また、この資料1の2ページ目のサークル交流会ですが、どのような内容か（活動の）発表なども行いますか。

事務局：天文ボランティア育成としてステラの会の活動を支援しております。5月から11月まで活動しております。中でも8月のペルセウス座流星群を見ようは、毎年田川コミセンに行って、それ以外は、研修室で星座の解説などを行った後に、屋上で望遠鏡を使い星座を観たりしているようです。メンバーは10名くらいで活動しているようです。

委員：どのような方が多いのですか。

事務局：参加者は、親子が多いようです。ステラの会は、市OBの方も活動しています。去年は皆既月食の年でもあり、大変多くの参加があったようです。

次に、サークル交流会の実施内容ですが、情報交換の場として、今年は7月26日午後6時から第3学区コミセン大ホールを会場に、余興とサークルの活動紹介を実施しました。4年ぶりに夜の開催で飲食もできたため、参加されたサークル会員の皆

様から大変好評をいただきました。

6. 協議 (1) 今後の事業展開について

事務局：事務局から今回、協議テーマとして、「アフターコロナ・ウィズコロナ時代における今後の講座のあり方」ということに絞って、各委員から意見をいただきたい趣旨を説明した。

(資料2：中央公民館及び女性センター講座実施状況(令和元年度～5年度まで)、資料3：今後の事業展開について)

委員：事務局より協議事項の「今後の事業展開について」の趣旨説明がありましたが、コロナも非常に大きな影響を及ぼしております。今年5月から徐々に上がってきて、今8月がピークになっているようです。ただし、(行動制限等が無くなった反動で)いろいろな所に出かけるのに、公民館を使うとか、集まりがおろそかになってようにも思われます。

一方で、コロナに慣れてしまってるのか、出づらくなっている人もいます。いろいろな問題があると思いますが、今後この中央公民館のあり方として何をどのようにしたら、利用される状況が増えるかについて検討することが課題かと思えます。

委員：中央公民館の講座の実施状況で、過去4年間コロナが拡大する中、これまでと状況が違うことがあるわけです。講座の実施に大変苦労され、企画し改善してるんだろうと思います。要覧の公民館の運営方針で、市民ニーズや地域課題に即した学習機会の提供とありますが、市民ニーズ、地域課題をどのような形で捉えて、企画に反映していったのかをお聞きしたい。

また、デジタル環境が大きく変わりつつある中、デジタル技術活用支援としてシニア向けに実施されているようですが、例えば講座、講演会でズームを活用し、各地域の方が参加できるような取り組みができないでしょうか。

事務局：市民ニーズについては、講座受講後にアンケートを実施し反映させております。社会課題としまして、少子高齢化を切り口としてとらえてゆきたいと考えております。コロナの影響がまだ続き、なかなか参加していただけない状況ですが、明治安田生命さんのご協力や関係機関との連携を得ながら、続けて行きたいと考えています。

続いてデジタル講座ですが、中央公民館でも館内Wi-Fi設備などデジタル環境の整備をいたしました。デジタル弱者といわれる高齢者を対象にした、スマートフォン講座およびパソコン講座を実施しています。まずはそうした方々にデジタルに慣れていただくことから始めている状況です。順次、オンライン・ズームを活用した講座についても開催を準備して行きたいと考えております。

事務局：A3の資料(資料2)の1枚目下に、SDGs、技術、デジタル、高齢化、防災、そして癒しと星印をつけております。実はコロナ禍で、難しい講座、ぜひ学んで欲しいような講座を企画しましたが、なかなか受講者が集まりませんでした。まず、(コロナの)二次被害対策として、ひきこもり状態、誰とも話さないでフレイルになるとかの問題も、タイトルにこだわり楽しい感じにして(まずは外に)出て来ていただけるようなものを考えて実施してみました。また、癒しもストレス社会が続いた社会的な課題だったのでないかと捉え、難しくなく、出かけるきっかけとなればと企画

しました。

それから、デジタルの配信については、自治振興会さんが受けていただけるのであれば、サテライト会場的にできないかと思っております。中央公民館でもWi-Fi設備を昨年度から館内、市民ホールでもできるようになっておりますが、まだ職員の私たちが使いこなせていないこともあり、ご相談しようにも交流、情報交換には至ってません。地域庁舎でも自治振興会さんでも、日にちと時間を合わせできればいいかと考えております。

なお、公民館としては、対面（人と人が一緒になっての講座形式）が望ましいですが、広い地域なので、中央公民館まで来れない人のために、デジタルはとても有効ではないかと思えます。委員の門松先生に質問ですが、秋に里仁館でオンライン講座の予定があるとチラシで拝見いたしました。先生から、オンラインの良いところ、あるいはこれは適さないなどアドバイスいただければと思います。

委員：オンラインの講座ですと、この秋に里仁館で予定があります。他に早稲田大学のエクステーションセンター、いわゆる一般向け講座など担当しておりました。庄内へ赴任してからは、会場が中野、八丁堀、早稲田など、東京だったことから、オンラインでの講座の形になりました。その場合、どこにいても講師や受講者が参加できる点は非常に大きなメリットでであろうと思います。

通信回線の容量、タイムラグ、回線画像音声が乱れてしまうとかに対応が取れば、ほぼ対面と変わらない形で講演することは可能だとは思いますが。ただオンラインの場合では、司会のような進行を仕切る人を置かないと、不規則発言が勝手に発言とかをされてしまい、講座が止まってしまうことがあるかと思えます。中央公民館の事業のように、体験型で実際に何かを操作し学びましょうという高齢者向けのデジタル講座などは、実際に声をかけて指導されないと（受講者が）良くわからないことになってしまいます。そういった点では対面の方がより効果が高いということになると思います。

一方で、教養講座的に教室で講師の話聞く形であれば、リアルタイムでなくても、録画を後日配信する形で、質問があれば講師にメール等で送るなどをして質疑応答などもできたりすると思えます。こういった形の講座を行うかによって、オンライン等を使った講座の良い点と問題点の双方があると思えます。その点も吟味するのが良いかと思えます。

事務局：シニア層向けのデジタル講座については、補助をつけて（受講者）8人に対応しています。1回8人が精一杯で、1人が引っかけると本当に進まなくなります。ただそれだけ需要があり（募集時）毎回すぐに一杯になってしまいます。

一方で、デジタル社会が更に進み、デジ田園構想がある中、取り残される人をできるだけ少なくしていくことに意味があるので、続けてたいと考えております。

委員：門松委員にお伺いしたいのですが、公民館の講座の中でデジタル化できる講座とできない講座もあると思えます。取り組み方というものがあるわけですか。どのような講座であればデジタルが可能なのでしょうか。

委員：いわゆる体験型といわれる踊り、音楽などでも、（リモート形式で）やろうと思

えばできないことはないと思います。本当に技術的なところや体の動かし方みたいなものは、画面越しではなく実際にその場で、指導をいただいた方が講座を受ける方としても、良いというか画面越しに見るとちょっと理解できないことがあると思います。例えば、学習講座、歴史関連の講座など、基本的に話を聞く講義型であれば、オンラインであっても大きな問題はないと思われま

一方、実際に経験をしてみようというようになりま

委員：オンラインができるようになれば、講座は家庭にいてもできるというわけですか。手始めとして講座にむけて皆さんが使えるようなことが第一段階ですね。

委員：ズームの使い方を、実際体験をしていただく形で初心者向け講座を学んでいただき、慣れていただく。まずはその第一歩のところをどういった形で身に着けていただくかが課題と思います。最初に経験された時は、分からないので、どれだけ、どうい

委員：デジタル化はこれから大事になると思います。（コロナ禍で）令和2年、3年に外出制限があり、私どもの能楽の講座に東京から5人の指導者が来れないということで、テレビの画面でお互いに交信をしながらやったことがあります。指導は、東京から画面を通してなので、先生のDVDで見ると同じような形になってしまいます。

（この種の）指導という面から見ると、動きなどは対面でないと駄目だなど。特に体を動かす場合は無理があることを体験したので、一言申し添えたいと思います。

あと、中央公民館でプラネタリウムの予約をライン申し込み始めたとのことですが、電話よりラインの方が便利だという今の時代になってきたわけ

委員：小学校で（児童たちは）プラネタリウムを毎回楽しみにしています。実際に課外学習に直結した内容としてお世話になっています。古典素読教室も鶴岡としては大切にしたいところなので、受講生が増えれば良いと思います。欠落している青年層をどうやって取り込めるかが難しいと見ていたところ

委員：女性センターも4年ぶりにサークル会員研修を7月2日に行いました。皆さん外に出る機会がなく、知らなかった施設もあり好評でした。身近なところですが、なかなか1人でいけない施設も説明をつけていただき、知らない地域のこともまだあるので、（今後も）取り上げていただければと思います。

委員：高齢者が占める人口の割合は大きいと思うのですが、いろんな“片付け”の講座がすごく好評だという話を聞きました。終活のイロハみたいなこともいいのでは

6. 協議 (2) その他

委員：要覧5ページの運営方針10項で、誰もが安全に安心して利用できる管理運営ということで申しますと、中央公民館は市民の避難場所として指定かどうかをお聞きしたい。職員の方が勤めていて、各サークルや講座、市民ホールの催し物等で利用している場合、その際の避難誘導、職員の避難訓練など実施していますか。

事務局：中央公民館は、指定緊急避難場所には入っておりません。ただし、洪水の場合、新海町と新海町新町、隣の女性センターは、東新斎町（の住民の方）が逃げることになっています。

消防関係ですが、市民ホールが大規模集会施設の関係から、消防署の立入検査を受け、特例認定も受けています。消防避難訓練は年2回。訓練時、利用サークルの方の訓練参加もお願いしております。足りないと思うのが地震対応で、市民ホールの各催し物で、土日で地震が来た場合、主催者に任せていいのかが足りない部分です。

事務局：公的に避難所指定は受けていないです。水害の時はここに逃げていいよということで、若干緊急資材が配られています。ただ、大雨の日にかなり水がつくような状態の中、歩いて避難して来れるのかと心配しています。（貸館で）利用中の方も大雨警報の時には早く帰っていただいて、早めの動きをお願いしようと考えています。

実際、プラネタリウムが始まる時に地震がぐらぐらっときまして、どうしようみたいな感じになりました。職員がいない土日の場合、誰が誘導するかということ。館内はガラスが非常に多く、ホールの照明も落ちてこないよう定期点検しているわけですが、安全に避難していただかないといけないと考えております。

委員：プラネタリウム（ドーム）が雨漏りするとのことですが、耐震構造は全部合格していますか。

事務局：新基準になってから建設した建物なので、一応耐震基準を達成しております。雨漏りは応急処置として、外側からコーキングで緊急対応しました。応急ですので来年度、再来年度に多額の改修費用がかかると思われます。庄内に一つしかないプラネタリウムで、小学生はまたは2歳3歳のお子さんが沢山来ていただきます。ただ維持管理に費用がかかります。今後、この建物をどうしてゆくかといった時が必ずやってきます。ぜひ応援していただけるとありがたいと思います。

委員：運営方針に施設整備の将来計画に向けた情報収集及び検討とあります。築40年経過し、いろいろな所、特に設備で老朽化の問題が生じ、最近、空調の冷房関係の工事をされてるようです。去年はエレベーターの改修工事を行ったように、具合が悪くなって初めて事後保全という形で対応するしかなく、限られた予算の中での対応ということもあり、ぜひ早く施設整備計画を作り、将来的にこの施設をどうするかを計画を策定して欲しいと思います。

委員：施設整備の件で毎回お話してるのですが、芸術文化団体から代表できているものですから言わせていただきます。この中央公民館には大事な市民ホールがあります。我々も芸能の集いで50年以上、文化会館、新文化会館、中央公民館とで続け、今年からまた新たに団体を募集しながら、鶴岡の邦楽邦舞交流を発表できる場を作ろうと計画しています。私ども能楽の関係で言いますと、市民ホールに所作台がないことで

す。立派な着物を着て、きれいに拭いたとはいえステージは釘を打ってもいいフロアになっている。土足で上がれるホールステージに立派な着物で座って、白足袋をはいて踊る所作をするのはどうかということで、3日間をかけて所作台を朝日から運んできて、設置した時代があったわけです。所作台をここに運ぶと50万円もかかるということです。毎回お願いしてるわけですが、倉庫なりを作ってください、朝日から所作台を（ここに移して）使えるようなホールにさせていただくと大変ありがたいと思います。毎回、この会でお願いをし、大変恐縮でありますけど使用する団体から見ると、要望しておきたいと思います。よろしくお願いします。

委員：皆さんからの貴重なご意見を反映していただきまして、気軽に利用できる社会教育施設として、中央公民館が今後ますます利用頻度が高まることを希望したいと思います。

事務局：貴重なご意見ありがとうございました。先ほど委員からの施設整備計画の策定はごもっともございまして、実は5年位前からこの話は出ていたようでございます。今回、（協議テーマは）「講座」ということで、集中的にご意見を賜りました。今後どうしたらいいか、中央公民館に必要な機能は何だろうということも、皆さんにご意見等伺いたいと考えておりました。

先ほど委員からもございましたが、市民ホールに所作台がないことは、以前から申し訳なく思っておりましたが、所作台は旧文化会館の財産で、社会教育課の所管です。長さが二間幅もあり、舞台に敷き詰めるためにはトラックで2～3往復しないと運べない。中央公民館に置けるスペースがなく、まだ朝日の廃校に置いてあります。

このような建物は寿命50年と一般にいわれており、学校関係はおそらく、大規模改修を加えながら80年、新しい建物は途中大規模改修を入れて80年使う目標といわれております。中央公民館は建ってから40年、各所に手は入れているのですが、大規模改修はして来てません。

今、給食センターが（施設改修に）動いています。鶴岡病院跡地の体育施設とか、新館図書館をどうするか等があり、その次に中央公民館の順番と思われます。その前に少し下準備をしておきたいと思っております。

また、先ほど古典素読教室の話も出ました。（運営審議会で）令和元年ごろに小学校1年生から募集したら良いのではというご意見をいただき、昨年から反映されていますし、皆様方の意見が来年ではないかもしれませんが、何年後かに、必ず無駄にしないようにしたいと思っております。次回も意見を幅広くいただけるとありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

7. その他

11月に鶴岡市で開催の山形県社会教育研究大会の参加希望について事務局より説明

8. 閉会：事務局